

平成30年度 北九州工業高等専門学校 年度計画及び実績報告

国立高等専門学校機構 平成30年度 年度計画	北九州工業高等専門学校 平成30年度 年度計画	北九州工業高等専門学校 平成30年度 実績報告
独立行政法人通則法(平成11年法律第103号)第31条の規定により、平成26年3月31日付け25受文科高第2682号で認可を受けた独立行政法人国立高等専門学校機構(以下「機構」という)の中期目標を達成するための計画(中期計画)に基づき、平成30年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。	-	-
I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 1 教育に関する事項	-	-
(1) 入学者の確保 ① 全日本中学校長会、地域における中学校長会などへの広報活動を行い、国立高等専門学校(以下「高専」という)への理解を促進するとともに、メディア等を通じ広く社会に向けて高専のPR活動を行う。	(1) 入学者の確保 ① 中学生、保護者、中学校教員、学習塾講師を対象にした学校説明会、中学校訪問、夏季と秋季のオープンキャンパスを継続して実施する。 ② 学校説明会等で、アドミッション・ポリシー(本校が求める学生像・入学者選抜の基本方針)、大括り入試の特徴、出願関係書類に関する留意点など、中学校教員、塾講師にとって、有用な情報をより多く提供する。 ③ インターネット・WEBサイトを活用して、中学生や保護者にとって、魅力ある北九州高専をPRする。 ④ 地域の中学校にて出前授業を行う。学生を対象とする各種イベントへ参加する。 ⑤ 公開講座の募集方法や実施内容、PR方法を検討し、志願者確保に向けた継続的な取り組みを行う。	①②地域の中学校教員、学習塾講師を対象にした入試説明会、中学校訪問、夏と秋のオープンキャンパス、近隣の高専との合同入試説明会を継続して実施した。 ・7月2日:学習塾との懇談会(20名参加) ・8月29日:中学校教員対象の説明会、学内で実施し、施設見学会も行った。(64名参加) ・9月29日:久留米・有明高専中学生・保護者対象の説明会(北九州高専ブース出展) ・8月25・26日:夏季オープンキャンパス(中学生433名、保護者等301名参加) ・10月13日:秋季オープンキャンパス(中学生258名、保護者等158名参加) ・11月3,4日:高専祭にて入試懇談会(約30家庭参加) ・9月～10月:福岡県内(関係地区)中学校訪問 122校 ・各中学校からの要請による入試説明会を実施:5校 ・各中学校からの要請による出前授業を実施:4校 ③HP記事の更新(92記事)を活発に行った。記事の内容を外部掲示板やモノレール駅への掲示することも積極的に行なった。 ④新たに講座数を1つ増やし、併せて11講座を実施し、244名に参加していただいた。募集に際してはHPを始め地域周辺の小中学校や市民センターを主として案内を行った。 ⑤8月17日に女子中学生限定の「ものづくり体験」の公開講座を開催して、18名の中学生が参加した。高専に対する印象が良くなったとの感想を得た。 ⑤10月20日に九州工業大学で開催された工学女子シンポジウム2018にて、女子中高生とその保護者に向けて、本校女子学生2名が講演を行った。
② 各高専における入学説明会、体験入学、オープンキャンパス、学校説明会等の志願者確保のための取組について調査し、その事例を各高専に周知する。 また、女子中学生向けに、パンフレット等を活用した広報活動を行うとともに、各高専における女子中学生の志願者確保に向けた取組状況を調査し、その結果を各高専に周知する。	⑥引き続き、本校における各種説明会等においてアンケートを実施し、そのデータを分析した結果を全教職員で情報共有し、改善点については迅速に対処する。 ⑦引き続き、オープンキャンパス、公開講座、出前授業等において、女子在学生の協力を得ながら、女子中学生向けのイベント・講座を実施し、女子中学生の志願者確保を目指す。 ⑧高専女子学生の進学や就職など具体的な情報を発信する。その際、女子在学生の質問コーナーを設け女子中学生、保護者からの質問・相談に対応する。	⑥⑧7月2日:学習塾との懇談会 ・8月30日:中学校教員対象の説明会、学内で実施し、施設見学会も行った。(66名参加) ・9月29日:久留米・有明高専中学生・保護者対象の説明会(北九州高専ブース出展) ・8月25・26日:夏季オープンキャンパス(中学生433名、保護者等301名参加) ・10月13日:秋季オープンキャンパス(中学生258名、保護者等158名参加) ・11月3,4日:高専祭にて入試懇談会(約30家庭参加) ・9月～10月:福岡県内(関係地区)中学校訪問 122校 ・各中学校からの要請による入試説明会を実施:5校 ・各中学校からの要請による出前授業を実施:4校 ・夏季オープンキャンパスでは、女子学生による女子中学生のための工作教室を開いた。 ・秋季オープンキャンパスでは、本校女子学生が女子中学生の質問等に答えるコーナーを設けて対応した。 ⑦8月17日に女子中学生限定の「ものづくり体験」の公開講座を開催して、18名の中学生が参加した。講座を継続して行ってほしい、高専の受験を考えている等の感想を得た。
③ 広報パンフレット等については、引き続き、ステークホルダーを意識した、各高専が広く利用出来るものとなるものを作成する。	⑨広報誌の改訂を検討し、引き続き、ポスター、パンフレット、リーフレット、マスコミ、HPなどを活用し広報活動の強化を図る。また、近隣の小・中学校や公民館等にも出向き、本校のPR活動を推進する。	⑨学校案内、学生募集用ポスター、広報用リーフレットの大幅なリニューアルを行った。(ページ数の増加・内容の刷新) ⑨北九州高速鉄道と連携し、本校の学生の活躍を駅掲示板に記事として掲載し、電照掲示板も5枚掲示している。 ⑨10月6日にイオンモール福津での学校説明会を計画したが、当日の台風25号直撃により中止した。平成31年度についても実施を予定している。

国立高等専門学校機構 平成30年度 年度計画	北九州工業高等専門学校 平成30年度 年度計画	北九州工業高等専門学校 平成30年度 実績報告
④ 高専教育にふさわしい人材を的確に選抜できるよう、中学校教育の内容を十分に踏まえたうえで良質な試験問題を作成し、なおかつ正確で公正な試験を実施する。また、高専教育にふさわしい人材を的確に選抜するための多様な入学選抜方法の実施を促進する。	⑩推薦入試の選抜方法、募集人員等が適切であるか引き続き検討する。 ⑪入試ミスの防止のため、入試ミスの事例集をガルーン上に保存し、事例集を活用しやすくする。	⑩課外活動等による推薦の出願資格の文言を一部変更した。 ⑩本科推薦選抜の面接検査について、1人あたりの面接時間15分に、口頭試問出題科目を英語、数学の2科目に変更した。 ⑪入試担当者が事例集を活用し、入試ミスの防止に役立っている。
⑤ 各高専・学科における学力水準の維持及び女子学生等の受入れを推進するための取組を調査し、その事例を各高専に周知する。	⑫入学志願者に関わる調査、入試選抜方法に関わる成績データ等の分析を継続し、情報共有を図る。 ⑬女子中学生向けの各種パンフレットを活用、オープンキャンパス時の懇談会実施など、女子志願者確保に向けた取組みを継続して行う。 ⑭高専ブランドの確立を強化する。 ⑮女子学生の修学環境の改善のため、整備計画やアンケートに基づき、寮、トイレ、更衣室等、必要な改修整備を推進する。	⑫入学志願者に関わる調査、入試選抜方法に関わる成績データ等の分析を行っている。 ⑬夏季オープンキャンパスでは、女子学生による女子中学生のための工作教室を開いた。 ⑭秋季オープンキャンパスでは、本校女子学生が女子中学生の質問等に答えるコーナーを設けて対応した。 ⑭九州大学および北九州モレールと連携協定の締結し、技術コンソーシアムを設立した。 ⑮寄宿舎3棟1階を女子居室にしたことから、3棟廻りの外柵補修、1階窓フィルム貼りの安全対策を行った。また、1階和式トイレの洋便器化、内壁および居室出入口扉塗装の実施による環境改善を行った。
(2)教育課程の編成等 ①-1 産業構造の変化や技術の高度化、少子化の進行、社会・産業・地域ニーズ等を踏まえ、本法人本部がイニシアティブを取って、51校の国立高等専門学校の配置の在り方の見直しや学科学再編、専攻科の充実等を、引き続き検討する。また、その際には、個々の高等専門学校の地域の特性を踏まえ、教育研究の個性化、活性化、高度化をより一層進展するよう配慮する。	(2)教育課程の編成等 ①本科、専攻科の改組については、平成27年度に同時改組を行い、現在、学年進行中であり、引き続き、完成年度まで改組を滞りなく実施する。 ②KOSEN4.0の事業計画に沿って、カリキュラムの見直し、国際交流及び地域との連携の充実について検討する。 ③5年生で、1ヶ月程度の海外研修が可能になるよう(グローバル対応特別カリキュラム)、規則等を整備する。 ④留学生(受入れ及び派遣)の増加などの更なる高度化について、継続して検討する。 ⑤継続している地域企業との共同教育(専攻科特論Ⅱ、Ⅲ)を行う。また、専攻科専門科目において一部外国人講師による英語での専門授業を引き続き実施する。 ⑥地元企業・他大学・市との連携による、ロボット産業やプラント産業と連携した企業の現役技術者による育成講座を継続開催する。 ⑦学内教員間の研究連携を強化する。 ⑧卒業研究および特別研究テーマの高度化と充実を図る。	①専攻科1年生の希望者を対象に受け入れ企業とのマッチングを図り、課題解決型長期インターンシップを実施。22社で25名の専攻科1年生が実習に取組んだ。 ①専攻科改組の効果を継続して検証する。 ①②専攻科長期特別実習として、ドイツに2名の学生を派遣した。 ②④KOSEN4.0の事業計画に沿って、国際交流の充実を図るためInternational caféによる国際交流体験者を増やし、海外派遣者、国際交流イベント参加者を増やすための指針を作成し・実行した。併せて地域連携の充実を図るため、北九州市との国際交流事業を協働で実施、また、北九州市の海外人材活用事業に協力した。 ③5年生の1ヶ月程度の海外留学について検討し、問題点を確認した。 ④(派遣)1年生を対象に、昨年度に引き続き「学生が本校の国際交流プログラムを理解したうえで高学年での留学、海外インターンシップ等に取り組めること」を目的として国際交流プログラム説明会を行った。(本校の提示するプログラムについては、低学年を対象とした文化交流から、語学研修を経て、高学年でのアイデアソン・ハッカソン、インターンシップ、共同研究などのプロジェクト課題を伴うものになるよう設計している。)また、「異文化に対する垣根を取り払い、海外への興味を膨らませること」を目的として、1～3年生を対象に外国人講師による異文化講演会を実施した。これらの取組みの成果として、低学年の海外派遣数増加に繋がった。高学年については、JASSO(H30ドイツ2名シンガポール7名)、トビタテ留学JAPAN(これまでの3名採択に加え、H30ドイツに2名採択)などにより協定校への派遣を支援している。 ④(受入)さくらサイエンス(H30インドネシアから10名招聘)、JASSO(H30ドイツ1名シンガポール2名)などにより協定校からの受入を支援している。⑤外国人講師による英語による専門授業を継続している。 ⑤地域企業との共同教育(専攻科特論Ⅱ、Ⅲ)を継続中であるが、見直しについて継続検討する。 ⑥シロキ工業(株)の技術者による特別講義「自動車部品メーカー 先行開発～製品化に必要と考え方・要素技術」を、12月17日に4年生(機械創造システムコース・知能ロボットシステムコース)86名を対象に実施した。 ⑦学内の専門に近い先生等で連携を行い、研究内容について学内の研究報告に掲載しホームページを通して内外に報告した。 ⑧特別研究テーマの高度化を推進している。 ⑧引き続き卒業研究や特別研究の成果を国際会議等で報告し、レベルアップと活性化を行っている。 ⑧卒業研究や特別研究の成果を国際会議等で報告し、レベルアップと活性化を行った。
①-2 学科や専攻科の改組における、社会・産業・地域ニーズ等の把握に当たっては、法人本部がイニシアティブを取ってニーズ把握の統一的手法を示し、各高専と検討する。		
② 教育の改善に資するため、基幹的な科目である「数学」、「物理」等に関し、学生の学習到達度を測定するための各高専共通の「学習到達度試験」をCBT型として実施する。また、その試験結果についてHPにて公表を行う。「英語」については、各高専におけるTOEIC等外部英語試験の活用状況等を調査し、その事例を各高専に周知する。また、英語能力向上に向けた外部英語試験結果について調査を実施する。	⑨課題テスト(本校教員作問試験と外部英語検定試験、4月、9月の年2回)を実施し、その結果を教育にフィードバックさせ、学力とモチベーションの向上に活用する。 ⑩CBT型学習到達度試験に参加し、その結果を教育にフィードバックさせ、学力とモチベーションの向上に活用する。 ⑪TOEICの全体的結果の年度毎の推移について、全教員に周知し、英語力伸長の取組について検討する。 ⑫専攻科では、専門科目の授業の中で一部外国人講師による英語での専門授業を継続実施する。	⑨課題テスト(本校教員作問試験と外部英語検定試験、4月、9月の年2回)を実施し、その結果を学級担任へ連絡し学力とモチベーションの向上に活用している。 ⑩11月～1月の間で、1年生は数学・化学、2年生は数学・物理、3年生は数学(物質化学コースは化学も受験)CBTに参加した。 ⑪TOEIC Bridgeを4月、9月の年2回、TOEICを10月に実施し、その結果を分析した。 ⑫専攻科において、外国人講師による英語専門授業を継続している。

国立高等専門学校機構 平成30年度 年度計画	北九州工業高等専門学校 平成30年度 年度計画	北九州工業高等専門学校 平成30年度 実績報告
③ 教育活動の改善・充実に資するため、在学生による授業評価の調査を実施し、教員にフィードバックする。	⑬引き続き授業アンケート、達成度アンケートを実施し、授業改善結果について分析する。 ⑭授業アンケートの結果を教育の質の向上に役立てるための方法について検討を行う。	⑬授業アンケート、達成度アンケートを、学生の回答方法を改善して実施し、授業改善結果について分析した。 ⑭授業アンケート集計結果のフォーマットを見直し、各科目における継続的な改善状況を記載するようにした。
④ 公私立高等専門学校と協力して、学生の意欲向上や高専のイメージの向上に資する「全国高等専門学校体育大会」や、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」、「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」、「全国高等専門学校デザインコンペティション」、「全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト」等の全国的な競技会やコンテストを実施する。	⑮平成30年度は、全国高等専門学校体育大会の主管校(担当校)であり、全国高等専門学校連合会とも連携を図りながら、円滑な大会運営にあたる。	⑮平成30年度全国高等専門学校体育大会は主管校として、全国高等専門学校連合会と連携し、円滑な運営にあたった。3月25日に開催された連合会総会のために決算書を作成した。
⑤ 各高専におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動や自然体験活動などの様々な体験活動のうち、特色ある取組およびコンテンツを各高専に周知する。	⑯理科・科学イベントへの参加、出前授業の実施等、理科支援活動に積極的に取り組む。 ⑰地区の市民センターが開催するイベントに積極的に参加し、ボランティアとしても運営の協力を行う。 また、教育委員会と連携した「ひまわり学習塾」及び近隣の中学校が実施する「りす・あっぷ教室」を推奨し、地域に貢献できるような事業に参加する。	⑯理科・科学イベントへ以下のとおり参加した。 ・7/31児童文化科学館主催「ジュニアマイスター養成講座」に学生ボランティアを派遣した。 ・8/3福岡県ロボット・システム産業振興会議総会においてお掃除ロボットとロボコン優勝ロボットの展示を行った。 ・8/15錦町市民センター主催「ブーメランをつくって遊ぼう！」に講師を派遣した。 ・8/17対面町立北公民館主催「北公夏休み子ども体験講座 パソコンの分解と組立」に講師を派遣した。 ・8/18守垣市民センター主催夏休み特別講座「ロボット体験教室」において、ロボットの出展及び操作体験を実施した。 ・8/18-19世界一好きたい科学広場IN北九州2018に「光の七不思議」、「放射線と放射能」を出展した。 ・8/22朽網小学校で出前授業を実施した。 ・9/15生涯学習市民講座(子ども向け)「コンピューター組み立てよう！」(北九州市立朽網市民センター)に講師を派遣した。 ・9/16飯塚市立図書館主催「科学広場2018」に「謎の飛行物体”空中コマ”」を出展した。 ・9/29丸山市民センター主催「生涯学習市民講座(子ども向け)空中コマを飛ばそう！」に講師を派遣した。 ・11/3モレールまつりでロボコン操作体験を実施した。 ・11/17錦町市民センター主催「生涯学習市民講座(子ども向け) かついいんをつくって遊ぼう！」に講師を派遣した。 ・11/18都城高専主催「おもしろ科学フェスティバル」に「謎の飛行物体”空中コマ”」、「不思議な化学実験」を出展した。 ・11/30広徳小学校へ出前授業を実施した。 ・12/22AT活用を推進する製作会にてロボコンの学生がはんだ付けの指導を行った。 ・3/21北九州児童文化科学館主催の「わくわく実験科学講座」に講師・学生を派遣した。 ・3/27、29ものづくり博覧会にてロボコン操作体験を実施した。 ⑰志井市民センターが開催する「志井ふれあい文化祭」等のイベントに参加し、ボランティアとしても協力した。 また、教育委員会と連携した「ひまわり学習塾」を推奨し、地域に貢献できるような事業に参加した。
(3) 優れた教員の確保 ① 各高専の教員の選考方法及び採用状況を踏まえ、高専における多様な背景を持つ教員の割合が60%を下回らないようにする。	(3) 優れた教員の確保 ① 優れた教員を確保するため、多様な背景を持つ教員(現時点62%)採用を継続的に図る。	①H31.3.1付けで情報システムコースに採用した教員は博士の学位を取得できていないため、早急に取得することとしている。 ①H31.4.1付けで知能ロボットシステムコースに採用した女性教員は外国籍(中国)で、博士の学位を取得済である。
② 長岡・豊橋両技術科学大学との連携を図りつつ、「高専・両技科大間教員交流制度」を実施する。 また、大学、企業等との任期を付した人事交流を実施する。	②他高専・技科大との人事交流を引き続き検討する。 ③大学・企業等との任期を付した人事交流について引き続き検討する。	②平成31年度は技科大との人事交流は行っていないが、東京高専から介護支援プログラムに基づき、物質化学コースに教授1名を受け入れている。 ③平成30年度は大学や企業との人事交流は行っていない。 ③近隣大学や技術科学大学とのクロスアポイントメントについて、まだ実施していないが、要望があれば検討を進める。

国立高等専門学校機構 平成30年度 年度計画	北九州工業高等専門学校 平成30年度 年度計画	北九州工業高等専門学校 平成30年度 実績報告
<p>③専門科目(理系の一般科目を含む)については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育能力を有する者の採用の促進を図り、専門科目担当の教員については全体として70%、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%をそれぞれ下回らないようにする。</p>	<p>④専門科目(理系の一般科目を含む。)は、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度資格を持つ者、一般科目は修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育能力を有する者の採用促進を図る。現在専門学科(理系の一般科目を含む)の博士の学位を持つ者は約94%、一般科目の教員は全員修士以上の学位を持っている。引き続き要件に合致する割合を維持するよう採用促進を図る。</p>	<p>④平成30年度の教員公募では、博士の学位取得の者又は取得見込みの者で公募を行った。 ④現在の公募中の教員公募についても、上記と同様の条件で公募を行っている。</p>
<p>④女性教員の積極的な採用・登用を推進するとともに、女性教員の働きやすい環境の整備を進める。</p>	<p>⑤教員公募に際し、女性のみ公募や評価が同等の場合の優先的な採用・登用を一層進める。 ⑥高専教員の公募拡大に貢献するため、教員職の就業体験(インターンシップ)受け入れ事業の実施を昨年度同様に行う。 ⑦女性教員等の育児・介護等と教育研究業務の両立を支援する「研究支援員配置事業」を活用する。(1件応募予定) ⑧育児・介護等ライフイベントにより研究活動を中断した女性教員に対して研究活動の復帰を支援する「Re-Start研究支援」を活用する。(1件申請) ⑨女性教職員の就業環境改善のため、H29年度に実施したアンケート調査結果を基に計画的に改善を推進する。 ⑩女性教職員に配慮した施設の整備を推進する。 ⑪女性教職員の就業環境改善のため、更衣室やトイレ等の必要な改修整備など、必要な改修整備について引き続き推進する。</p>	<p>⑤現在公募中の教員公募においても、女性優先を明記の上、公募を行っている。 ⑥教育職の就業体験(インターンシップ)受け入れ事業については、平成30年度は応募者がいなかったが、今年度も受け入れ可能なコースにおいて実施を検討する。 ⑦⑧「Re-Start研究支援」に教員1名が申請したが、不採択となった。 ⑨平成29年度に実施したアンケートに基づき、夜間暗くなり危険と指摘されたキャンパス外周部分の樹木剪定を実施し、死角や暗がりを極力減らすことにより安全確保を行った。 ⑩平成29年度に実施した女子学生や女性教職員を対象としたアンケートに基づき、女子トイレの増設、休憩時間の延長、女子ロッカーの増設などの対応を行った。 ⑪平成30年度も女子学生や女性教職員を対象としたアンケートを実施し、平成31年度に向けて対応を検討している。</p>
<p>⑤ 教員の能力向上を目的とした各種研修について、研修講師への高等学校教員経験者や優れた取組を実践している者の活用や、ネットワークの活用などを図りつつ、企画・開催する。 また、地元教育委員会等が実施する高等学校の教員を対象とする研修や近隣大学等が実施するFDセミナー等への各高専の参加状況を把握し、派遣を推進する。</p>	<p>⑫教員の資質向上及びキャリアパス形成を目的とした講演会等の開催や、高専機構、企業、福岡県教育委員会等が主催する外部研修会へ計画的派遣を行う。 ⑬教員が参加した研修会等の報告や資料の集約と共有化を進め、その効率的な方法について検討する。 ⑭FD研修会を年3回程度開催する。 ⑮学内での優れた取組みを取り上げ、学内FD活動の推進に役立てる。 ⑯学内において公開授業を実施し、授業方法等の改善の推進をする。</p>	<p>⑫平成30年度高等専門学校新任教員研修会に2名、中堅教員研修会に2名、教員研修会(管理職研修)に2名がそれぞれ参加した。 ⑫福岡県教員センター主催の平成30年度専門研修講座(キャリアアップ講座)に1名参加予定であったが、事情により参加できなかった。 ⑬研修会の報告や資料はガールーン上で共有されているが、その有効的な活用方法を継続審議とした。 ⑭以下のFDに関する講演会、講習会を開催した。 9/11 ハラスメント講演会(96名参加) 9/11 科学研究費助成事業に関する講演会(92名参加) 12/19 分野横断的能力、実験スキルの評価に関するFD研修会(36名参加) ⑮学内の優れた教育実践例の収集を引き続き行い、次年度に開催することとした。 ⑯学内において公開授業を実施し、終了後の良い取り組みの評価やアドバイス等の意見交換により授業改善を推進した。</p>
<p>⑥ 教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰する。</p>	<p>⑰機構本部が実施する教員顕彰制度を引き続き実施する。</p>	<p>⑰機構本部が実施する教員顕彰に推薦する予定にしていたが、候補者がなく推薦することが出来なかった。</p>
<p>⑦ 60名の教員に長期短期を問わず国内外の大学等で研究・研修する機会を充実するとともに、教員の国際学会への参加を促進する。</p>	<p>⑱長岡・豊橋技科大との連携を図りつつ、「高専・技科大間教員交流制度」を引き続き実施する。 ⑲内地研究員の派遣を推進する。</p>	<p>⑱平成30年度は高専・技科大との人事交流者はいなかった。人員数によっては派遣が難しいコースもあるため、本人の希望に基づき、コースへの負担の少ない形で人事交流を引き続き検討する。また、受け入れ希望がある場合は、希望コースと調整の上、柔軟な対応を検討する。 ⑲H31年度内地研究員の募集を行ったが応募はなかった。</p>
<p>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム ①-1 高専教育の質保証を推進するため、主体的な学習を推進し、モデルコアカリキュラムの到達目標に対するルーブリック等による到達度を評価する。</p>	<p>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム ①モデルコアカリキュラムの各項目の実施状況について点検を行う。 ②モデルコアカリキュラムに基づいたカリキュラム実施のためのFD活動を行う。 ③各種研修会に教職員を派遣し、その内容や成果を学内で報告し、共有化を図る。</p>	<p>①②分野横断的能力、実験スキルの評価に関するFD講演会を12/19に実施した。 ③リパブリック・ポリテック(シンガポール)の講師2名によるPBLに関するワークショップを実施し、本校および近隣高専教員が受講した。 ③平成30年度全国高専フォーラムに教員を派遣し、得た内容や情報を教員会議および各関係委員会にて報告、共有した。 ③徳山高専で開催された講習会「CTT+準拠基礎コース」に教員を派遣し、内容の共有を行った。</p>

国立高等専門学校機構 平成30年度 年度計画	北九州工業高等専門学校 平成30年度 年度計画	北九州工業高等専門学校 平成30年度 実績報告
①-2 高専で保有する学生情報、教材情報、学校情報等をデータベース化し、相互に連携した情報システムの開発を進める。	④「高専学生情報統合システム」のモデル校として、教務・入試アプリケーションの検証を行う。	④「高専学生情報統合システム」のモデル校として、新教務アプリ・入試アプリに移行するため、現行の教務アプリ・入試アプリから、学校情報、学生情報、成績情報など移行対象となるデータの抽出を行った。
② JABEE認定プログラム等の更新を行うとともに、教育の質の向上に努める。 また、在学中の資格取得について調査し、各高専に周知する。	⑤JABEE認定プログラムについて、H28年度に受審した継続審査結果及び平成29年度実施内容を踏まえながら、プログラムの点検、改善を継続して実施し、教育の質の向上に努める。	⑤進捗状況報告時に「H28年度継続審査における指摘事項6件のうち、H29年度に2件は対応済」と報告したが、再度点検したところ、4件対応済みであった。 ⑤指摘事項「評価基準が明記されていない科目があるなどシラバス記述に不十分な点がある」について改善するため、評価項目やルーブリックの内容について点検を行い、発覚した問題（本科52科目、専攻科16科目）の改善を教務委員会、専攻科委員会へ依頼した。 ⑤指摘事項「プログラムの教育活動を点検する仕組みの明確化」については、現状の確認を行った。改善策については引き続き検討していく。
③サマースクールや国内留学等の高専の枠を超えた学生の交流活動を促進するため、各高専の取組状況を調査し、その事例を各高専に周知する。	⑥近隣の高専や大学と連携し、特別研究発表会の共同実施について検討する。	⑥特別研究発表会への地域企業技術者の参加数が開始当初から増加している。(36名) ⑥近隣高専との合同発表会について引き続き検討する。 ⑥5月31日に、北九州市立大学国際環境工学部との合同研究発表会を行い、専攻科生が発表した。
④ 高専教育における特色ある優れた教育実践例や取組事例を収集・公表し、各高専における教育方法の改善を促進する。	⑦高専教育における特色のある優れた取組事例集を参考に、教育方法の改善を組織的に行う。 ⑧優れた教育実践例について、学内で講演会を行う。また、収集した事例について学内外で報告し各高専における教育改善を促進する。	⑦9月11日の教員会議で、全国高専フォーラムの報告会を実施した。 ⑦⑧9月1日、2日に「第24回日本高専学会年會講演会」を本校で開催し、本校教員が教育実践例を講演発表するとともに、他校の事例や教員との情報交換を通して、さらなる教育改善のための知見を得た。また、特別企画として「パネルディスカッション」を開催し、企業との協働教育について議論した。 ⑧学内の優れた教育実践例の収集を引き続き行い、次年度にFD講演会で紹介することとした。
⑤ 自己点検・評価及び高等専門学校機関別認証評価を計画的に進める。 また、各高専の教育の質を保つために、評価結果及び改善の取組事例について総合データベースで共有する。	⑨自己点検・自己評価委員会において、平成29年度に実施した学校全体にわたる活動の点検・評価を行い、評価結果の学内周知とともに公開する。 ⑩JABEE・認証評価専門部会において、平成32年度受審予定の高等専門学校機関別認証評価の準備を進める。	⑨平成29年度計画の実績報告を基に、教育、研究、社会連携、国際交流、管理運営等に関する学校全体にわたる活動を点検・評価を継続して行っている。 ⑩平成32年度受審に向けて、高等専門学校機関別認証評価の基準・観点に基づき、1回目の点検活動（専門部会員による点検）を実施した。 ⑩8月21日に開催された「高等専門学校機関別認証評価に関する説明会」「平成31年度に実施する高等専門学校機関別認証評価に関する自己評価担当者等に対する研修会」に専門部会員3名が参加し、情報収集を行った。 ⑩第1回目の点検作業を受けて「高等専門学校機関別認証評価の基準・観点」を本校関係部署と共有する必要があると判断し、その方法について検討を重ねたが、結論が出なかったため継続審議とした。
⑥ 各高専におけるインターンシップへの取組を産学官連携活動と組織的に運動することで、より効果的なインターンシップの実施を推進する。 また、企業と連携した教育コンテンツの開発を推進しつつ「共同教育」を実施し、その取組事例を取りまとめ、周知する。	⑪地域産業界等と連携した、短期型ならびに長期実践型のインターンシップを継続・推進し、効果的な実施事例を収集・公表する。 ⑫ITSAP2018に係る企業と連携した高専アイデアソン等に本校学生を派遣する。	⑪地域産業界等と連携した、短期型ならびに長期実践型のインターンシップを継続・推進した。具体的には、短期型インターンシップ（夏季休業期間に実施）は、本科4年196名の内188名（96%）、専攻科1年生47名の内14名（30%）の学生が参加した。また、「本科4年長期学外実習（特定曜日に企業等に向き実施する課題解決型インターンシップ、選択3単位）」として21社に36名、「専攻科1年長期特別実習（1ヶ月または20日程度を企業に向き実施する課題解決型インターンシップ、選択4単位）」として19社に25名の学生が地域企業での長期インターンシップに参加するなど、履修生等が大幅増加した。（平成29年度実績：本科は14社に24名、専攻科は9社に9名） インターンシップ事例公表として、平成30年9月に開催された高専学会第24回年會講演会において「地域と連携した長期インターンシップ」の口頭発表を行った。また、文科省主催「インターンシップ届出制度」に関連して、平成29年度実績から「本科4年長期インターンシップを【インターンシップ表彰】に申請し、平成30年度は「本科4年の短期および長期インターンシップ」と「専攻科1年の長期インターンシップ」の3件を届出制度に申請した。 ⑫5月7日～10日開催のITSAP2018内の催しである企業と連携した国際アイデアソンに専攻科学生6名が参加。 本校学生が所属したチームは最優秀賞及びスポンサー賞を受賞した。 11月16日～18日開催の国際ハッカソンに本校専攻科生4名、本科5年生1名が参加。 本校学生が所属したチームは最優秀賞とスポンサー賞を受賞した。

国立高等専門学校機構 平成30年度 年度計画	北九州工業高等専門学校 平成30年度 年度計画	北九州工業高等専門学校 平成30年度 実績報告
<p>⑦ 企業技術者や外部の専門家と協働した教育を実施するとともに、これらの教育のうち特色ある事例について各高専に周知する。</p>	<p>⑬地域企業との共同教育(専攻科特論II, III)を継続する。 ⑭専攻科の課題解決型長期インターンシップの充実を図る。 ⑮日本弁理士会九州支部との交流を継続する。 ⑯知的財産、技術者倫理・法規に関する授業を実施する。(カリキュラムとして整備) ⑰企業技術者や外部の専門家と協働したキャリア育成支援教育を継続し、効果的な教育について公表する。</p>	<p>⑬地域企業との共同教育(専攻科特論II, III)について継続中であるが、見直しを継続検討する。 ⑭専攻科の課題解決型長期インターンシップの充実が進行中であり、制度の効率的な運用を図った。 ⑮平成30年度日本弁理士会高専学生向け知的財産セミナーを以下のとおり実施した。 ・第1回(侵害編):5月9日、参加学生81名 ・第2回(侵害編):5月9日、参加学生80名 ⑯専攻科の授業にて知的財産、技術者倫理・法規の授業を2年生対象に実施した。 ⑰企業技術者や外部の専門家と協働したキャリア育成支援教育を継続した。具体的には、「本科4年長期学外実習(特定曜日に企業等に向き実施する課題解決型インターンシップ、選択3単位)」として21社に36名、「専攻科1年長期特別実習(1ヶ月または20日程度を企業に向き実施する課題解決型インターンシップ、選択4単位)」として19社に25名の学生が地域企業での長期インターンシップに参加するなど、履修生等が大幅増加した。(平成29年度実績:本科は14社に24名、専攻科は9社に9名) また、キャリアコンサルタント等による低学年から高学年学生に向けた講演会を計画的に実施した。</p>
<p>⑧ 理工系大学、とりわけ長岡・豊橋両技術科学大学との協議の場を設け、教員の研修、教育課程の改善、高専卒業生の継続教育などについて連携して推進する。</p>	<p>⑱ISTSへ教員・学生を派遣し、国際交流を推進する。 ⑲交流協定締結校との国際交流を推進する。 ⑳「三機関が連携・協働した教育改革」として取り組む教職員のFD研修について積極的に学内周知を行い参加希望者を募る。 ㉑ITSAP2018に係る高専アイデアソン等に学生を派遣する。 ㉒高専・技科大連携プロジェクトにより共同研究を実施する。</p>	<p>⑱ISTSへ教員1名、専攻科学生1名が参加した。 ⑲交流協定校との国際交流 ・33名の短期留学生を受け入れた。 タイ:キングモンクット工科大学3名、カセサート大学5名、中国:香港VTC3名 シンガポール:テマセクポリテク3名、ナンヤンポリテク2名、ドイツ:ロイトリンゲン大学1名、韓国:釜山外大16名 ・さくらサイエンスプログラムにおいて、11/5～11/14の日程で、交流協定校であるガジヤマダ大学から9名及び引率教員1名を招聘した。 ・交流協定校の学生38名を招待し、5/7～10の日程で国際アイデアソンを開催した。 シンガポール:ナンヤンポリテク、リパブリックポリテク、テマセクポリテク、タイ:カセサート大学 中国:香港VTC、モンゴル:科学技術大学付属高専、工業技術大学付属高専 ・交流協定締結校に28名の学生を派遣した。 シンガポール:リパブリックポリテク2名。ニーアンポリテク1名、タイ:カセサート大5名、ベトナム:ハノイ大2名 中国:香港IVE1名、韓国:釜山外国語大17名、全北大学校9名、ドイツ:エスリンゲン大学1名、ロイトリンゲン大学1名 ・ISIEに専攻科学生1名が参加し、「Best Oral Presenter賞」を受賞した。マレーシ:ペトロナス工科大 ・交流協定校の学生12名を招待し、11/16～18の日程で国際ハッカソンを開催した。中国:香港VTC ⑳平成30年度三機関連携グローバルSD(マレーシア・ペナン研修)について周知したが、業務との調整等が難しく推薦できなかった。 ㉑ITSAP2018内の催しである企業と連携した国際アイデアソンに専攻科学生6名が参加。本校専攻科学生が所属したチームは最優秀賞及びスポンサー賞を受賞した。 11月には企業と連携した国際ハッカソンに専攻科学生4名、本科学学生1名が参加。本校学生が所属したチームは、最優秀賞、スポンサー賞を受賞した。 ㉒高専・技科大プロジェクトに以下のとおり申請し共同研究を実施した。 ・長岡技術科学大学 4件申請し、3件(計1,100千円)が採択された。</p>
<p>⑨ 高専教育の特性を活かす、ICTを活用した教材や教育方法の開発を推進するとともに、開発した教材や教育方法を収集し、各高専において利活用を推進する。 また、ICT活用教育に必要な各高専の校内ネットワークシステムなどの情報基盤について、整備計画に基づき調達を進める。</p>	<p>㉓ICTを活用した教材や支援ツールの収集、開発を行い、学内での利活用を推進する。 ㉔Webclass やblackboardのICTを活用した教材および教育方法、教材管理システムの開発と利活用を推進する。 ㉕学校内のネットワークシステムなどの情報基盤の整備を行う。</p>	<p>㉓Blackboardを用いた物理に関するe-learning教材を構築し、学生が自学自習や達成度確認に利用できるようにした。 ㉔WebClassやBlackboard上に各科目のウェブ上クラスを開設していた。Web上での授業アンケートやPBL科目における学生相互評価の回答データ収集システムの作成などにより利活用を推進した。 ㉕また、更新時期を迎えていたWEBサーバ、事務用サーバ等については、平成31年4月からの運用開始に向け、平成31年3月末までに機器の更新作業は全て完了した。</p>

<p style="text-align: center;">国立高等専門学校機構 平成30年度 年度計画</p>	<p style="text-align: center;">北九州工業高等専門学校 平成30年度 年度計画</p>	<p style="text-align: center;">北九州工業高等専門学校 平成30年度 実績報告</p>
<p>(5) 学生支援・生活支援等 ①-1 学生のメンタルヘルスを含めた学生指導等に関する講習会等を開催し、学生支援の質の向上及び支援業務における中核的人材の育成を推進する。 ①-2 経済情勢等を踏まえ、関係機関等と連携の上、学生に対する修学支援、生活支援を推進するとともに、社会に向けて周知を図るなど支援の活用を促進する。</p>	<p>(5) 学生支援・生活支援等 ①メンタルヘルス講習会等に積極的に参加し、多感な学生に対して、カウンセラーとも連携を取りながら、学生支援体制の充実を図る。 ②経済的に修学困難な学生に対しては、入学科免除・授業料減免・就学支援金及び各種奨学金等の周知等を行い、経済的な支援が受けられるような制度の活用を図る。</p>	<p>①メンタルヘルス講習会等に積極的に参加し、多感な学生に対して、カウンセラーとも連携を取りながら、学生支援体制の充実を図った。また、学力不振の学生にはTAを付け、学力不振によるメンタル不調を防いでいる。 ②経済的に修学困難な学生に対して、入学科免除・授業料減免については説明会を行い、就学支援金・各種奨学金等については掲示及びメールにより周知を行い、経済的な支援が受けられるような制度の活用を図った。</p>
<p>② 国立高専機構施設整備5か年計画(平成28年6月決定)に基づき、各高専の寄宿舎などの学生支援施設について実態やニーズに応じた整備を推進する。</p>	<p>③学生寄宿舎2棟について次期概算要求対象建物と位置付け、学生の男女比率や入寮希望者数、留学生数増加の見込みを踏まえた上で、整備計画を検討・作成する。</p>	<p>③2020年度国立大学法人等施設整備費概算要求を行うため、寮務主事等関係組織と連携し、寄宿舎2棟の整備計画を作成した。</p>
<p>③ 各高専に対して各種奨学金制度の積極的な活用を促進するため、ホームページを活用して、学生を対象とした奨学団体などの情報を掲示する。 また、産業界等の支援による奨学金を適切に運用し、制度の充実を図る。</p>	<p>④各種奨学金に関しては、引き続き、学生に対して情報提供を行う。また、給付型奨学金についても活用できるよう、掲示及びメールにより周知を行っていく。</p>	<p>④各種奨学金・給付型奨学金については掲示及びメールにより周知を行った。</p>
<p>④-1 各高専における企業情報、就職・進学情報などの提供体制・相談方法を含めたキャリア支援に係る体制について、また、高い就職率を確保するための取組状況について調査し、その事例を各高専に周知する。 ④-2 就職問題懇談会「採用選考活動に関する申合せ」に基づく各高専の適切な進路指導を促進する。</p>	<p>⑤キャリア形成支援、男女共同参画の意識啓発を目的とした講演会を実施する。 ⑥社会で活躍している本校OGによる講演会を実施する。 ⑦女子学生による公開講座等の実施や女子学生による学校説明会での説明等の機会を設け、女子学生のキャリア形成を支援する機会を充実させる。 ⑧キャリア支援室会議の機能を充実させ、入学時からの計画的なキャリア育成支援策を検討し、随時実行する。 ⑨就職情報やインターンシップ情報の一元管理ツールを有効活用するなど、多様なキャリア形成支援を充実させる。 ⑩学生一人ひとりの適性と希望に合った進路指導を行う。 ⑪就職問題懇談会「採用選考活動に関する申合せ」を遵守するとともに、企業等に対してスケジュールへの協力を要請する。</p>	<p>⑤6月20日に、本校の2年生の男女全学生(216名)を対象に、奈良高専の藤田先生に「北九州高専の学生にとって男女共同参画って何?」という題名で講演していただき、HPでも紹介した。 ⑥オープンキャンパスにおいて女子中学生及び在校女子学生を対象にOG講演会を実施、71名の参加者があった。高専に入学後～卒業後のイメージを抱きやすいと受講者からの好評を得た。 ⑦10月20日に九州工業大学で開催された工学女子シンポジウム2018にて、女子中高生とその保護者に向けて、本校女子学生2名が講演を行った。 ⑧キャリア支援室会議の機能を充実させ、入学時からの計画的なキャリア育成支援策を検討し、随時実行した。具体的には、インターンシップ推進セミナー(5月)、ビジネスマナー講習会(7月)、キャリア育成支援講演会(12月)、OB・OGセミナー(1月)などを行った。本科1～4年では、各学生が、自分の強み、興味のある分野などを客観的に向き合うための「キャリア育成シート調査」を継続的に実施しており、活用しやすいように「結果の見える化」もを行い各人が確認できるように工夫した。また、平成30年度は新規に「北九州高専版のキャリアポートフォリオ」を提案し、本科4年担任の協力で学生に配付・回収頂き、学生指導への利活用を促した。 ⑨函館高専が中心に開発された「進路支援システム」の活用協力校となり、就職情報やインターンシップ情報の一元管理に向け、平成29年1月から本格稼働している。協力高専10校および企業等が入力した就職情報・インターンシップ情報・大学情報は年々増加傾向があり有用性も高く、学外からも閲覧できる環境設定していることもあり、キャリア形成支援ツールとして利用価値が高い。 ⑩キャリア支援室と就職担当教員が会社面談などで連絡を密に取り、学生一人ひとりの適性と希望に合った進路指導を行った。 ⑪就職問題懇談会「採用選考活動に関する申合せ」を遵守するとともに、企業等に対してスケジュールへの協力を要請を行った。</p>
<p>⑤船員養成のニーズに応えるため、現状を分析し、関係機関と協力して船員としての就職率を上げるための取組を促進する。</p>	<p style="text-align: center;">-</p>	<p style="text-align: center;">-</p>

国立高等専門学校機構 平成30年度 年度計画	北九州工業高等専門学校 平成30年度 年度計画	北九州工業高等専門学校 平成30年度 実績報告
(6)教育環境の整備・活用 ①-1 国立高専機構施設整備5か年計画(平成28年6月決定)に基づき、教育研究活動及び施設・設備の老朽化状況等に対応した整備や施設マネジメントの取組を計画的に推進する。	(6)教育環境の整備・活用 ①照明器具、空調など、整備計画に沿って学内の老朽化した施設・設備を更新する。併せて省エネへの取組を推進する。 ②基幹・環境整備(屋外配管敷設替)について、昨年度に引き続き、平成31年度施設整備費概算要求を行う。予算化に向け、事業規模、費用等の適正性について見直しを行う。 ③ユニバーサルデザインの導入の観点より、老朽化が進むエレベーターの整備計画を策定する。	①照明設備のLED化として、7月に2号館2階演習室の照明更新を完了した。 ②基幹・環境整備については、防災対策や構内道路整備とも絡めて埋設配管を整備する形で内容の見直しを行い、概算要求を行った。結果として、2019年度施設整備費等概算要求事業として選定された。 ③過去の補修履歴や使用実態をもとに、整備内容や要求目標年度を含めた整備計画を策定した。
①-2 施設の非構造部材の耐震化については、引き続き、計画的に整備を推進する。	④老朽劣化した外壁、軒裏のモルタル等落下危険性について調査を行う。危険度が高い場所から順次補修を行う。	④5月に調査を行い、危険性があつた車庫、寄宿舎浴室モルタル落下に対して補修対応を行った。
①-3 PCB廃棄物については、ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法等に基づき、適切な保管に努めるとともに、計画的に処理を実施する。	⑤発見されたPCB廃棄物について、平成30年度中に適正に処分する。	⑤平成29年度に発見された高濃度PCB(ネオントランス)については、平成30年8月に適正に処分した。
② 学生及び教職員を対象に、「実験実習安全必携」を配付するとともに、安全衛生管理のための各種講習会を実施する。	⑥教職員対象に安全衛生管理関係講習会を実施する。 ⑦低学年の実験で安全教育を実施する。 ⑧各種実験及び実習における安全教育を実施する。	⑥平成30年度労務・人事担当者のための労働衛生管理研修会について、前期は2名が6テーマに、後期は3名が5テーマに参加した。 ⑦1・2年生の実験、実習時に安全についての説明を行った。 ⑧機械創造システムコース4年・5年、知能ロボットシステムコース5年ならびに専攻科学生や「ロボコン」などの部員に対して、「ものづくりセンター」の加工機器類使用に対する安全教育講習を実施し、「安全講習終了証」を発行した。 ⑧各実験及び実習における安全教育を実施した。
③-1 男女共同参画推進及びワーク・ライフ・バランスを推進するための意識醸成等環境整備に努める。 ③-2 高専のダイバーシティ環境の実現や維持のための情報収集、各高専への提供に努める。	⑨教員公募に際し、女性のみ公募や評価が同等の場合の優先的な採用・登用を一層進める。 ⑩高専教員の公募拡大に貢献するため、教員職の就業体験(インターンシップ)受け入れ事業を引き続き実施する。 ⑪女性教員等の育児・介護等と教育研究業務の両立を支援する「研究支援員配置事業」を活用する。(1件応募予定) ⑫育児・介護等ライフイベントにより研究活動を中断した女性教員に対して研究活動の復帰を支援する「Re-Start研究支援」を活用する。(1件採択決定) ⑬男女共同参画取組状況をHP等に掲載し、内外へ情報発信する。 ⑭男女共同参画に関する講演会へ参加し、意識啓発や改善に繋げる。	⑨現在公募中の教員公募においても、女性優先を明記の上、公募を行っている。 ⑩教育職の就業体験(インターンシップ)受け入れ事業については、平成30年度は応募者がいなかったが、今年度も受け入れ可能なコースにおいて実施を検討する。 ⑪⑫「Re-Start研究支援」に教員1名が申請したが、不採択となった。 ⑬本校HP上に男女共同参画推進のページを立ち上げ、内外へ情報発信を行っている。 ⑭6月20日に、本校の2年生の男女全学生(216名)を対象に、奈良高専の藤田先生に「北九州高専の学生にとって男女共同参画って何？」という題名で講演していただき、HPでも紹介した。
2 研究や社会連携に関する事項 ① 各種新技術説明会等の開催により、各高専における研究成果を発信する機会を設ける。また、各高専での外部資金獲得に関する調査を実施し、好事例の共有と活用を行うことなどにより外部資金を獲得する。	2 研究や社会連携に関する事項 ①学内で科学研究費助成事業の説明会を実施する。 ②研究プロジェクト経費への応募を促進し、外部資金獲得につなげる。	①科学研究費助成事業の説明会を以下のとおり実施した。 ・9/11に本校教育コーディネーターによる科学研究費助成事業に関する講演会開催し、教職員92名が参加した。 ・10/10に平成30年度国立高等専門学校機構 科学研究費助成事業講習会をテレビ会議システムにて実施し、教職員19名が参加した。 ・本校教員による科学研究費申請作成ワークショップを開催した。(9/6 10名参加 10/11 6名参加) ②研究プロジェクト経費へ下記のとおりに応募した。 ・平成30年度研究プロジェクト経費助成事業 研究ネットワーク形成支援事業に1名の教員が応募したが不採択となった。 ・平成29年度研究プロジェクト経費助成事業 研究ネットワーク形成支援事業(継続)に1名の教員が応募し採択(247千円)された。 (外部資金実績) ・科研費 新規:5件(基盤C3件、若手1件、挑戦的研究1件)、総額8,450千円 継続:8件(基盤B1件、基盤C3件、スタート支援1件、若手B3件)、総額10,010千円 分担金:8件、総額2,223千円 補助金:4件 総額17,222千円 共同研究契約:21件 総額22,000千円 受託研究契約:5件 総額6,199千円 受託事業:2件 総額3,508千円 寄附金:22件 総額19,121千円 その他助成金:3件 総額636千円

国立高等専門学校機構 平成30年度 年度計画	北九州工業高等専門学校 平成30年度 年度計画	北九州工業高等専門学校 平成30年度 実績報告
<p>② 研究成果を発表する各種機会を活用し、高専の研究成果について広く社会に公表する。また、国立高専リサーチアドミニストレータ(KRA)や地域共同テクノセンター等を活用し、産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受入れを促進するとともに、効果的技術マッチングを推進する。</p>	<p>③ イノベーションジャパン等のマッチングイベントに出展する。 ④ 技術振興会を設立し、産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受入れを促進するとともに、効果的技術マッチングを推進する。</p>	<p>③ イノベーションジャパンに「病院の経営・運営を健全化する注射薬自動管理システム」を展示した。 ④ 北九州高専技術コンソーシアムを7月に設立し、以下のイベントを実施した。 ・特別講演会「北九州高専技術コンソーシアムへの期待」講演者：弁理士・下田正寛氏。(7/5) ・日本高専学会において会員によるパネルディスカッション(9/1) ・特別講演会「3Dプリンター活用事例紹介セミナー」を実施した。講演者：GE Additive 日本統括責任者 トーマスバン氏(10/23) ・ラボツアー 北九州高専ものづくりセンターを見学を実施した。(10/23) ・会員紹介パンフレット作成した。 ・会員紹介イベントを開催した。(1/12) ・北九州高専技術コンソーシアム技術交流会を行った。(1/25) ・専攻科公开发表会にコンソーシアム会員が参加した。(1/25) ④ 北九州商工会議所と地域活性化や産学連携に関する連携協定を締結した。 ④ 西日本製造技術イノベーション1件、ロボット産業マッチングフェア北九州2件、イノベーションジャパン1件に出展を行い、北九州高専の技術力をPRした。 ④ 北九州商工会議所が主催した企業側187名(103社)大学側100名(13大学・高専教員61名・職員39名)が参加した「企業と大学との情報交換会」に参加し、地元企業と名刺交換等を行った。(8/27)</p>
<p>③ 知的財産講習会の開催や知的財産コーディネーターを活用することで、各高専の研究成果の円滑な知的資産化及び活用に向けた取組を促進する。</p>	<p>⑤ 知的財産業務に従事する教職員向けの講習会に参加する。</p>	<p>⑤ 平成30年度第5ブロック研究・産学連携・地域連携合同会議、及び第5回日本弁理士会九州支部との交流会において、高専の研究・産学連携・知財に関して高専教員と討論を行った。(1/23)</p>
<p>④ 国立高専リサーチアドミニストレータ(KRA)等を活用し、高専のもつ技術シーズを地域社会に広く紹介するとともに、「国立高専研究情報ポータル」や産学連携広報誌等を用いた情報発信を行う。</p>	<p>⑥ ホームページ上の教員総覧を更新し、常に最新の状態にしておく。 ⑦ 教員総覧(ダイジェスト版)2018を作成する。</p>	<p>⑥ ホームページ上の教員総覧については、常に最新の情報にしている。教員総覧からresearchmapへリンクを貼っており、researchmapについても最新の情報に更新した。 ⑦ 研究者総覧(ダイジェスト版)2018を7月に作成し、ホームページ上から閲覧、ダウンロードできるようにした。</p>
<p>⑤ 公開講座(理科教育支援を含む)の参加者に対する満足度のアンケート調査を行うとともに、特色ある取組およびコンテンツについては各高専に周知する。</p>	<p>⑧ HPによる内外への情報提供を促進する。 ⑨ 多彩なプログラムを提供して公開講座をより充実したものにす。 ⑩ 小中高の生徒を対象とした理科・科学イベントへの参加等、理科支援活動に積極的に取り組む。</p>	<p>⑧ HP記事の更新(92記事)を活発に行った。記事の内容を外部掲示板やモノレール駅への掲示することも積極的に行った。 ⑨ 開催講座の数を1つ増やし、講座のバリエーション拡充を行った。小学生、中学生、女子学生を対象に、小中学校の夏休み期間を中心として11種類の講座を開講し、244名の小中学生が受講した。 ⑩ 理科・科学イベントへ以下のとおり参加した。 ・7/31 児童文化科学館主催「ジュニアマイスター養成講座」に学生ボランティアを派遣した。 ・8/3 福岡県ロボット・システム産業振興会議総会においてお掃除ロボットとロボコン優勝ロボットの展示を行った。 ・8/15 錦町市民センター主催「ブーメランをつくって遊ぼう！」に講師を派遣した。 ・8/17 苅田町立北公民館主催「北公夏休み子ども体験講座 パソコンの分解と組立」に講師を派遣した。 ・8/18 守恒市民センター主催夏休み特別講座「ロボット体験教室」において、ロボットの出展及び操作体験を実施した。 ・8/18-19 世界一好きたい 科学広場1N北九州2018に「光の七不思議」、「放射線と放射能」を出展した。 ・8/22 朽網小学校で出前授業を実施した。 ・9/15 生涯学習市民講座(子ども向け)「コンピューター組み立てよう！」(北九州市立朽網市民センター)に講師を派遣した。 ・9/16 飯塚市立図書館主催「科学広場2018」に「謎の飛行物体」空中コマ」を出展した。 ・9/29 丸山市民センター主催「生涯学習市民講座(子ども向け)空中コマを飛ばそう！」に講師を派遣した。 ・11/3 モノレールまつりでロボコン操作体験を実施した。 ・11/17 錦町市民センター主催「生涯学習市民講座(子ども向け) かっこいい風をつくって遊ぼう！」に講師を派遣した。 ・11/18 都城高専主催「おもしろ科学フェスティバル」に「謎の飛行物体」空中コマ」、「不思議な化学実験」を出展した。 ・11/30 広徳小学校へ出前授業を実施した。 ・12/22 AT活用を推進する製作会にてロボコンの学生がはんだ付けの指導を行った。 ・3/21 北九州児童文化科学館主催の「わくわく実験科学講座」に講師・学生を派遣した。</p>

国立高等専門学校機構 平成30年度 年度計画	北九州工業高等専門学校 平成30年度 年度計画	北九州工業高等専門学校 平成30年度 実績報告
<p>3 国際交流等に関する事項</p> <p>①ー1 公私立高等専門学校や長岡・豊橋両技術科学大学との連携を図りつつ、海外の教育機関との学術交流を推進し、また、在外研究員制度を活用し、教員の学術交流協定校への派遣を積極的に推奨することで交流活動の活性化を促すとともに、長岡・豊橋両技術科学大学と連携・協働して取組む三機関が連携・協働した教育改革の一環として教員を海外の高等教育機関等に派遣し、教員のFD研修に取組む。</p> <p>さらに、国際協力機構の教育分野の案件への協力を進める。</p> <p>①ー2 海外への留学を希望する学生を支援するため、日本学生支援機構の奨学金制度等を積極的に活用できるよう情報収集を行い各高専に提供する。また、全高専を対象に派遣学生を募集し、安全面に十分配慮した上で海外インターンシップを実施するとともに滞在期間を長くするなどの質的向上も目指す。</p>	<p>3 国際交流等に関する事項</p> <p>①ISTSへ教員・学生を派遣し、国際交流を推進する。</p> <p>②交流協定締結校との国際交流を推進する。</p> <p>③交流協定締結校の増加を図る。</p> <p>④「三機関が連携・協働した教育改革」として取り組む教職員のFD研修について積極的に学内周知を行い参加希望者を募る。</p> <p>⑤ITSAP2018に係る高専アイデアソン等に学生を派遣する。</p> <p>⑥在外研究員の派遣を推進する。</p> <p>⑦九州沖縄地区9高専と連携し、アジア圏にある協定企業へのインターンシップ、協定大学への語学研修・学生交流等への本校学生参加者数増を図る。</p>	<p>①ISTSへ教員1名、専攻科学生1名が参加した。</p> <p>②交流協定校との国際交流</p> <p>・33名の短期留学生を受け入れた。 タイ:キングモンクット工科大学3名、カセサート大学5名、中国:香港VTC3名 シンガポール:テマセクポリテク3名、ナンヤンポリテク2名、ドイツ:ロイトリンゲン大学1名、韓国:釜山外大16名 ・さくらサイエンスプログラムにおいて、11/5～11/14の日程で、交流協定校であるガジヤマダ大学から9名及び引率教員1名を招聘した。 ・交流協定校の学生38名を招待し、5/7～10の日程で国際アイデアソンを開催した。 シンガポール:ナンヤンポリテク、リパブリックポリテク、テマセクポリテク、タイ:カセサート大学 中国:香港VTC、モンゴル:科学技術大学付属高専、工業技術大学付属高専 ・交流協定締結校に39名の学生を派遣した。 シンガポール:リパブリックポリテク2名、ニーアンポリテク1名、タイ:カセサート大5名、ベトナム:ハノイ大2名 中国:香港IVE1名、韓国:釜山外国語大17名、全北大学9名、ドイツ:エスリンゲン大学1名、ロイトリンゲン大学1名 ・ISIEに専攻科学生1名が参加し、「Best Oral Presenter賞」を受賞した。マレーシア:ペトロナス工科大 ・交流協定校の学生12名を招待し、11/16～18の日程で国際ハッカソンを開催した。 中国:香港VTC</p> <p>③交流協定締結校の増加</p> <p>・2018.8.20 パンヤビワット経営大学(タイ)とMOU締結 ・2019.3.11 永進専門大学(韓国)とMOU締結</p> <p>④平成30年度三機関連携グローバルSD(マレーシア・ペナン研修)について周知したが、業務との調整等が難しく推薦できなかった。</p> <p>⑤ITSAP2018内の催しである企業と連携した国際アイデアソンに専攻科学生6名が参加。本校専攻科学生が所属したチームは最優秀賞及びスポンサー賞を受賞した。 11月には企業と連携した国際ハッカソンに専攻科学生4名、本科学学生1名が参加。本校学生が所属したチームは、最優秀賞、スポンサー賞を受賞した</p> <p>⑦夏季休業中に海外インターンシップへ12名の学生を派遣した。 フィリピン:千代田フィリピン2名 タイ:MAXIS 4名(うち1名沖縄高専) ROHM 3名(うち1名有明高専) マレーシア:マエダソリューションズ 3名</p> <p>⑦交流協定締結校に39名の学生を派遣した。 シンガポール:シンガポールポリテク2名、ニーアンポリテク1名 マレーシア:ペトロナス工科大1名 (ISIE2019「Best Oral Presenter賞」を受賞) タイ:カセサート大5名 ベトナム:ハノイ大2名 中国:香港IVE1名 韓国:釜山外国語大17名、全北大学9名 台湾:静宜大学1名</p>

国立高等専門学校機構 平成30年度 年度計画	北九州工業高等専門学校 平成30年度 年度計画	北九州工業高等専門学校 平成30年度 実績報告
<p>② 全高専による外国人学生対象の3年次編入学試験を共同で実施する。また、日本学生支援機構等が実施する国内外の外国人対象の留学フェア等を活用した広報活動を行うとともに、留学生の受入れに必要となる環境整備や私費外国人留学生のための奨学金確保等の受入体制強化に向けた取組を推進する。さらに留学生教育プログラムの企画を行うとともに留学生指導に関する研究会等を更に充実させる。</p>	<p>⑧ 高専機構、九州沖縄地区9高専と連携して実施する学生派遣や留学生受入プログラムへの参加を検討する。 ⑨ 学生への海外での語学研修プログラムを企画・実施する。 ⑩ 低学年から国際交流へのモチベーションを高めるため、低学年に当年度の海外渡航者から体験報告等を聞かせ、併せて近隣在住の外国人を講師に招き、異文化交流、外国語によるコミュニケーション等の機会を作る。 ⑪ 学生寄宿舎2棟について次期概算要求対象建物と位置付け、今後の留学生数の増加の見込みを踏まえた上で、整備計画を検討・作成する。その際、日本人学生と留学生との交流が促進されるようなシェアハウス型(混住型)の寄宿舎や、交流スペースを備えた寮の整備を検討する。</p>	<p>⑧ 交流協定校の学生38名を招待し、5/7～10の日程で国際アイデアソンを開催した。 シンガポール: ナンヤンポリテク、リパブリックポリテク、テマセクポリテク タイ: カセサート大学 中国: 香港VTC モンゴル: 科学技術大学付属高専、工業技術大学付属高専 ⑨ 夏季休業中に9高専連携交流協定校に7名の学生を派遣した。 タイ: カセサート大5名 ベトナム: ハノイ大2名 ⑩ 昨年度に交流協定を締結した韓国: 釜山外国語大学と語学研修及び異文化体験のプログラムを検討し、夏季休業中に17名の学生を派遣した。 ⑪ 韓国: 全北大学と昨年度から開始しているプログラムをブラッシュアップし、春季休業中に学生9名を派遣した。 ⑫ 7/9に、本校の国際交流プログラムの理解、及び国際交流への興味を膨らませることを目的として、新入生を対象とした国際交流プログラム説明会及び異文化講演会を開催した。 ⑬ さくらサイエンスプログラムにおいて、11/5～11/14の日程で、9高専連携の交流協定校であるガジャマダ大学から9名及び引率教員1名を招聘した。 ⑭ 低学年から国際交流へのモチベーションを高めることを目的として、海外渡航者からの体験報告及び外国人講師による異文化講演会を開催した。 (1年生 7/9、2年生 11/16、3年生 12/12) ⑮ 2020年度国立大学法人等施設整備費概算要求を行うため、寮務主事等関係組織と連携し、寄宿舎2棟の整備計画を作成した。日本人学生と留学生との交流が促進されるようなシェアハウス型平面配置を一部取り入れることとした。</p>
<p>③ 各地区において、外国人留学生に対する研修等を企画し、実施する。</p>	<p>⑫ 九州沖縄地区の留学生交流研修に参加するとともに、本校外国人留学生とチューターとの交流研修を企画・実施する。 ⑬ 外国人留学生に対し日本文化の理解を深め日本の技術等を体験させるための日本文化体験事業を実施する。</p>	<p>⑫ 九州沖縄地区の留学生交流研修会には都合が悪い学生が多く今回は1名の参加となった。 ⑬ 外国人留学生とチューターの交流研修を12/15～16に佐賀・有田方面で開催した。 日本文化体験を同時開催として、有田でろくろ体験し、後日焼いて色づけされた碗や皿が届いた。</p>
<p>4 管理運営に関する事項 ①-1 機構としての迅速かつ責任ある意思決定を実現するとともに、そのスケールメリットを生かし、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。 ①-2 機構としての迅速かつ責任ある意思決定を実現するための方策を引き続き実施するとともに、検証を行う。</p>	<p>4 管理運営に関する事項 ① 昨年度に引き続き、中期計画の目標達成のため、予算専門部会において、早期執行及び効果的・戦略的な予算配分を検討し、主事会議、運営委員会の審議を経て、迅速に予算配分を行う。</p>	<p>① 早期配分は実施したものの、その分、調整に時間がかけられず、校内に不満が残る結果となった。 今後はスケジュールを早めることだけに固執するのではなく、十分な説明をできるようにしていく。</p>
<p>②-1 ブロック校長会議などにおいて高専の管理運営の在り方について引き続き検討を進める。 ②-2 主事クラスを対象とした学校運営、教育課題等に関する教員研修「管理職研修」を実施する。</p>	<p>② 機構本部が実施する中核的役割を担う教員を対象とした管理職研修等に積極的に参加する。</p>	<p>② 平成30年度高等専門学校教員研修会(管理職研修)に2名が参加した。</p>
<p>③ 更なる管理業務の集約化やアウトソーシングの活用などを検討する。</p>	<p>③ 引き続きアウトソーシングを推進し、業務の効率化と経費削減を推進する。</p>	<p>③ コピー機の契約期間を3年から5年に見直し、経費を削減することができた。</p>
<p>④-1 機構本部が作成した、コンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用して、教職員のコンプライアンスの向上を行う。 ④-2 各高専の教職員を対象とした階層別研修等においてコンプライアンス意識向上に関する研修を実施する。 ④-3 理事長のリーダーシップの下、適切な業務運営を行うため、内部統制の充実・強化及び適切な内部統制を実施するとともに、教職員等との密なコミュニケーションを図り、教職員の職務の重要性についての認識の向上を図る。</p>	<p>④ 独立行政法人国立高等専門学校機構における公的研究費等不正防止計画に基づき、不正防止計画を実施する。 ⑤ 機構本部が作成した、コンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用して、引き続き教職員のコンプライアンスの向上を図る。</p>	<p>④ ⑤ 5月に高専機構本部が実施したコンプライアンス教育の実施について、学内へ関係規則及び公的研究費の管理監査のガイドラインの受講を周知し、「公的研究費の運営・管理に関する誓約書」及びガイドライン受講の理解度に係る「コンプライアンス教育アンケート」の提出を実施し、ガイドラインの受講率、誓約書の回収率共に100%であった。</p>

国立高等専門学校機構 平成30年度 年度計画	北九州工業高等専門学校 平成30年度 年度計画	北九州工業高等専門学校 平成30年度 実績報告
<p>⑤常勤監事の主導の下、監査体制の充実等、内部統制の充実・強化を推進する。また、時宜を踏まえた内部監査項目の見直しを行い、発見した課題については情報を共有し、速やかに対応を行うとともに、監事監査結果について随時報告を行う。また、各高専の相互監査項目を見直し、一層の強化を行う。</p>	<p>⑥会計内部監査の監査項目、監査体制を見直すとともに、高専相互会計内部監査前までに、会計内部監査を実施する。</p>	<p>⑥会計内部監査の監査項目、監査体制を見直し、監査対象の一部変更、及び内部監査の監査員の見直しを図った。また、高専相互監査日(10月24日・25日)の前(10月11日)に会計内部監査を実施した。</p>
<p>⑥「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」及び「公的研究費の管理・監査のガイドライン(平成26年2月18日改正)」を踏まえた各高専での取組状況を定期的にフォローアップすることにより、公的研究費等に関する不適正経理を防止する。 また、継続的に再発防止策等の見直しを行う。</p>	<p>⑦独立行政法人国立高等専門学校機構における公的研究費等不正防止計画に基づき、不正防止に努める。 ⑧学内で公的研究費使用に関する研修会を実施する。</p>	<p>⑦⑧9月11日に公的研究費の不正防止に関する研修会を実施し、92名の教職員が参加した。 ⑦⑧APRIN eラーニングプログラムによる研究倫理教育を実施した。対象は教員及び技術職員で少なくとも3年に1度は受講を行っている。</p>
<p>⑦ 事務職員や技術職員の能力向上を図るための研修会を計画的に実施するとともに、国、地方自治体、国立大学法人、一般社団法人国立大学協会などが主催する研修会に参加させる。 また、職務に関して、特に高く評価できる成果が認められる事務職員や技術職員の表彰を行う。</p>	<p>⑨公的機関若しくは民間企業等が実施する学校運営、境域課題等に関する研修への積極的な参加を推進する。 ⑩他高専・他大学が主催する地区別の各種研修に積極的に参加しスキルアップを図る。 ⑪教職員の能力向上のために公的機関、一般企業等が実施する能力向上等の学外研修に参加させる。 ⑫職務に関して特に高く評価できる成果が認められる事務職員や技術職員の表彰制度を活用する。</p>	<p>⑨平成30年度高等専門学校若手職員研修会に1名が参加し、学内報告会を10月29日に開催した。 ⑩情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修会に2名参加した。 ⑪平成30年度西日本地区高等専門学校技術職員特別研修会に1名参加した。 ⑫平成30年度九州国立大学法人等技術専門職員・中堅技術職員研修会に1名参加した。 ⑬平成30年度九州地区国立大学法人等技術職員スキルアップ研修会Aに1名参加した。 ⑭職員表彰制度に関して、平成30年度の推薦者はいなかった。</p>
<p>⑧ 事務職員及び技術職員については、国立大学や高専間などの人事交流を積極的に推進する。</p>	<p>⑬事務職員及び技術職員の人事交流を引続き推進する。</p>	<p>⑬平成30年度事務職員他大学からの人事交流者受入れ3名、高専機構本部へ2名が人事交流を行っている。 ⑭平成30年9月28日付けで福岡県内3高専間で事務職員の人事交流に関する協定を締結した。</p>
<p>⑨ 各高専の校内ネットワークシステムシステムや高専統一の各種システムなどの情報基盤について、時宜を踏まえた情報セキュリティ対策の見直しを進める。 また、教職員の情報セキュリティ意識向上のため、必要な研修を計画的に実施する。</p>	<p>⑭情報の移送・提供の手順を定め、情報管理の徹底及び教職員の意識向上を図る。 ⑮情報セキュリティに関する定期的な注意喚起、セキュリティソフトウェアの運用については、前年度に引き続き実施する。 ⑯実務担当者を対象とした人材育成研修への担当者の派遣を実施する。</p>	<p>⑭情報の移送・提供許可申請書の作成を行い、情報セキュリティ対策を一層強化するとともに、学内へ周知・宣誓書の提出を徹底することによって教職員の意識向上に努めている。本年度は「情報セキュリティ強化に係る誓約書」の教職員からの提出済み、「教職員を対象とした情報セキュリティ教育の研修」は実施中である。 ⑮教職員に対して、初期対応手引〔すぐやる三箇条〕等をもとに、危険メールを受信した際の注意喚起を都度行っている。また、定期的にフルスキャンを行っていただくように喚起しセキュリティレベルの向上に努めている。 ⑯IT人材育成研修会(9/19～21)に1名、九州地区国立大学法人等事務情報化担当者連絡会議(10/30)に1名を派遣し、情報担当者研修会(11/14～11/16)に2名実務担当者を派遣した。</p>
<p>⑩ 各国立高等専門学校において、機構の中期計画および年度計画を踏まえ、個別の年度計画を定める。また、その際には、各国立高等専門学校及び各学科の特性に応じた具体的な成果指標を設定する。</p>	<p>⑰機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、本校の具体的な成果指標を設定した年度計画を策定する。</p>	<p>⑰平成30年度計画について、学内の関係委員会、関係組織等において策定の上、機構本部へ提出するとともに学内へ周知した。</p>

<p style="text-align: center;">国立高等専門学校機構 平成30年度 年度計画</p>	<p style="text-align: center;">北九州工業高等専門学校 平成30年度 年度計画</p>	<p style="text-align: center;">北九州工業高等専門学校 平成30年度 実績報告</p>
<p>Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置</p> <p>運営費交付金を充当して行う業務については、業務の効率化を進め、高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与費相当額及び当年度特別に措置しなければならない経費を除き、一般管理費(人件費相当額を除く。)については3%、その他は1%の業務の効率化を行う。</p> <p>また、各高専がそれぞれの特色を活かした運営を行うことができるよう戦略的かつ計画的な経費配分を行うとともに、更なる共同調達の推進や一般管理業務の外部委託の導入等により、一層のコスト削減を図る。</p> <p>業務遂行の一層の効率化を図るため、財務内容・予算執行状況等の分析手法を検討する。</p> <p>「調達等合理化計画」については、フォローアップを適宜実施する。</p>	<p>5. 業務運営の効率化に関する事項</p> <p>①九州地区の国立大学法人等の電力一括契約に参加し、電力単価を下げるにより、限られた予算を有効に活用する。</p>	<p>①気象条件の違いもあるため一概に比較できないが、年間の水道光熱費が対前年度で約1000万円削減された。今後も一括調達に参加し、単価を抑えるとともに、全体の使用量削減にも取り組んでいく。</p>
<p>Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む、収支計画及び資金計画。)</p> <p>1 収益の確保、予算の効率的な執行、適切な財務内容の実現 共同研究、受託研究、寄附金、科学研究費助成事業などの外部資金の獲得に積極的に取組み、自己収入の増加を図る。</p> <p>2 予算 別紙1</p> <p>3 収支計画 別紙2</p> <p>4 資金計画 別紙3</p> <p>5 総人件費については、政府の方針を踏まえ、厳しく見直しをするものとする。なお、職員の給与水準については、国家公務員の給与水準を十分考慮し、当該給与水準について検証を行い、適正化に取組むとともに、その検証結果や取組状況を公表する。</p>	<p>6. その他</p> <p>①共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費助成事業などの外部資金獲得への具体的で効果的な取組みに対して予算配分を行う。</p>	<p>①従来通り、「研究への貢献」を校長が査定し、共同研究、受託研究、寄附金、科学研究費補助金を獲得している教員に研究費の傾斜配分を行っているほか、科研費申請・採択にかける報奨として、新規申請…10,000円、新規採択…120,000円を配分し、従来(前者20,000円、後者100,000円)よりもさらに採択に重きを置いた。</p> <p>また、在籍教員に無条件で配分する研究費57,000円を学内プロジェクト等の経費に振り替え、配分を行った。</p> <p>研究費に配分できる予算が年々少なくなっている中、より実績を重視した配分にしていく。</p>
<p>Ⅳ 短期借入金の限度額</p> <p>1 短期借入金の限度額 155億円</p> <p>2. 想定される理由 運営費交付金の受入の遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借入することが想定される。</p>	<p style="text-align: center;">-</p>	<p style="text-align: center;">-</p>

国立高等専門学校機構 平成30年度 年度計画	北九州工業高等専門学校 平成30年度 年度計画	北九州工業高等専門学校 平成30年度 実績報告
<p>V 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 以下の土地等の譲渡に向けた手続きを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苫小牧工業高等専門学校錦岡宿舎団地(北海道苫小牧市明徳町四丁目327番37、236) 4、492.10㎡ ・八戸工業高等専門学校中村団地(青森県八戸市大字田面木字中村60)5、889.43㎡ ・福島工業高等専門学校下平窪団地(福島県いわき市平下平窪字鍛冶内30)1、510.87㎡、桜町団地(福島県いわき市桜町4-1)480.69㎡ ・長岡工業高等専門学校若草1丁目団地(新潟県長岡市若草町1丁目5-12)276.36㎡ ・富山高等専門学校下堀団地(富山県富山市下堀字上大道割85番39)596.33㎡ ・石川工業高等専門学校横浜団地(石川県河北郡津幡町字横浜イ137)3、274.06㎡ ・沼津工業高等専門学校香貫団地(静岡県沼津市南本郷町14-27)288.19㎡ ・香川高等専門学校勅使町団地(香川県高松市勅使町355)5、606.00㎡ ・有明工業高等専門学校平井団地(熊本県荒尾市下井手字丸山768番)247.75㎡、宮原団地(福岡県大牟田市宮原町1丁目270番)2、400.54㎡、正山10団地(福岡県大牟田市正山町10番)292.76㎡、正山71団地(福岡県大牟田市正山町71番2)284.39㎡ ・佐世保工業高等専門学校瀬戸越団地(長崎県佐世保市瀬戸越1丁目1945番地17、18、19、20、21、57)2、081.75㎡ ・都城工業高等専門学校年見団地(宮崎県都城市年見町34号7番)439.36㎡ 	<p>—</p>	<p>—</p>
<p>VI 剰余金の使途 決算において剰余金が発生した場合には、教育研究活動の充実、学生の福利厚生の実、産学連携の推進などの地域貢献の充実及び組織運営の改善のために充てる。</p>	<p>—</p>	<p>—</p>
<p>VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設及び設備に関する計画 国立高専機構施設整備5か年計画(平成28年6月決定)に基づき、教育研究活動及び施設・設備の老朽化状況等に対応した整備や施設マネジメントの取組を計画的に推進する。</p>	<p>①照明器具、空調など、整備計画に沿って学内の老朽化した施設・設備を更新する。併せて省エネへの取組を推進する。 ②基幹・環境整備(屋外配管敷設替)について、昨年度に引き続き、平成31年度施設整備費概算要求を行う。予算化に向け、事業規模、費用等の適正性について見直しを行う。 ③ユニバーサルデザインの導入の観点より、老朽化が進むエレベーター4基の整備計画を策定する。</p>	<p>①照明設備のLED化として、7月に2号館2階演習室の照明更新を完了した。 ②基幹・環境整備については、防災対策や構内道路整備とも絡めて埋設配管を整備する形で内容の見直しを行い、概算要求を行った。結果として、2019年度施設整備費等概算要求事業として選定された。 ③過去の補修履歴や使用実態をもとに、整備内容や要求目標年度を含めた整備計画を策定した。</p>
<p>2 人事に関する計画 (1)方針 教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を推進する。 (2)人員に関する計画 常勤職員について、その職務能力を向上させるとともに、全体として効率化を図り、常勤職員の抑制をしつつ、高専の学科構成並びに専攻科の在り方を見直しなどの高度化・再編・整備の方策の検討に応じて教職員配置の見直しを行う。</p>	<p>(1)方針 ①教職員の高専、大学等との人事交流を引き続き積極的に推進し、多様な人材育成を図り、資質の向上を図る。 (2)人員に関する計画 ②教職員の職務能力の向上、効率化の施策について検討するとともに、高度化・再編に応じた教職員配置の検討を行う。</p>	<p>①②平成30年9月28日付けで福岡県内3高専間で事務職員の人事交流に関する協定を締結した。</p>